

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077700138
法人名	社会福祉法人 希望の丘
事業所名	聖母園グループホーム
所在地	福岡県三井郡大刀洗町大字今491番地 (電話) 0942-77-3774

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	500 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院・嶋田病院・河野歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と田園が調和した町の一角に、広い敷地を持つ法人の養護老人ホーム・保育園等、福祉施設が連なる中央部に事業所はあり、利用者の生活に配慮した落ち着いた和風平屋建ては親しみと安らぎを醸し出している。庭園の緑の芝生は、利用者のそぞろ歩きや話の場となり日々の心身機能の維持に適し、時折りお茶・茶話会を楽しむ等、開放的な自由空間でもある。ホールには利用者作品の毛筆の詩を展示し季節感のある清楚な花を飾り、利用者の穏やかな明るい笑顔の自然さに自ずと心が和む。保育園児との相互交流や、地域の老人会と一緒に季節毎の行事を楽しむ等、地域密着型に相応しいその人らしい尊厳のある暮らしが伺える。代表者・全職員は高い理念と熱意を持ち、地域福祉への貢献と事業所のサービスケアの質の向上を目指しており、更なる発展が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、成年後見制度の活用や衛生管理等、改善計画を作成し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者・全職員は自己評価の意義を理解している。自己評価は、項目毎に全職員で取り組み、意見を聴取し集約して、最終的に管理者が完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催している。利用者や家族の状況や行事、今後の活動計画、外部・自己評価等への取り組み状況等について報告し、意見をもらっている。委員より「地域の中で自然体で我が家として安心して暮らして貰う支援が大切」との助言を得て、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。年1回、家族会を開催し、意見が出やすい関係作りを心がけている。終末期についての事業所の対応や家族同伴の県外旅行等、意見を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会・自治会・老人会に加入し、事業所便り等の広報紙を地域に配布している。近隣の道路の草取りや祭り等の地域行事に参加し、近所から野菜の差し入れや学生ボランティアを受入れ、保育園児との交流もある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を代表者・全職員が理解し、「地域の中の一員として」その人らしく暮らし続ける事を支援していく独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼時やミーティング時に管理者が理念の確認を行い意識化を図り、職員は言葉かけ・態度・記録など日々理念に基づきケアの実践を行っている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会・自治会・老人会に加入し、事業所便り等の広報紙を地域に配布している。近隣の道路の草取りや祭り等の地域行事に参加し、近所から野菜の差し入れや学生ボランティアを受入れ、保育園児との交流もある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解している。自己評価は、項目毎に全職員で取り組み、意見を聴取し集約して、最終的に管理者が完成させている。前回評価での改善課題については、成年後見制度の活用や衛生管理等、改善計画を作成し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。利用者や家族の状況や行事、今後の活動計画、外部・自己評価等への取り組み状況等について報告し、意見をもらっている。委員より「地域の中で自然体で我が家として安心して暮らして貰う支援が大切」との助言を得て、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に広報紙を配布し、事業所の状況を話す機会がある。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、入居時に本人・家族へ説明している。全職員は内部・外部の研修で周知している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書を整備している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月1回、事業所便りを発行している。家族来訪時に暮らしぶり等を報告し、行事への参加を呼びかけている。状態変化時には、その都度電話連絡をとっている。金銭管理については、個別に出納簿を作成し、来訪時に署名・押印をもらっている。領収書は、確認してもらったり、手渡ししている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。年1回、家族会を開催し、意見が出やすい関係作りを心がけている。終末期についての事業所の対応や家族同伴の県外旅行等、意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は法人間で行っている。日常的に法人間で交流し、職員は利用者と馴染みの関係を作っている。ローテーションを工夫して退職を最小限に抑えている努力をしている。引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージへの配慮を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。公平性を持ち、基本的人権を考慮して採用し、個々が能力發揮できるようキャリアに留意し、生き生きと働きながら社会参加や自己実現が出来るように、研修受講も偏らないよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員は、人権に関する内部・外部研修を受講している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書をファイルし、全職員で共有している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に学ぶことを推進し、職員が内部・外部研修を受ける機会がある。全職員が研修内容経験年数に応じて資格取得を薦めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員は、近隣事業所と電話にて相談や勉強しあって交流している。</p>	○	<p>電話だけでなく、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組んでほしい。</p>
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、本人・家族の見学及び管理者が自宅訪問を実施している。やむを得ず即利用の場合は、家族に暫時付き添ってもらよう家族等と相談して、事業所の雰囲気に徐々に馴染めるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	詩や調理方法、漬物漬け等、人生の先輩として生活の知恵を習い、共に笑い共に泣き、感謝の気持ちを伝えて支え合う関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、行動やしぐさを見逃さないようにし、希望や意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な人は家族等から生活歴等を聴取し、本人本位に支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見・要望・思いを聴き、職員の気づきアイデア等を取り入れて反映させた本人本位の介護計画を作成している。家族の了承の署名・押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始1ヶ月には計画の検討をし、その後は6ヶ月に1回長期目標・短期目標を設定している。状態変化時には家族と話し合っ、随時計画を見直し、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、事業所は医療関係者と情報交換を密にし、早期退院に向けて取り組んでいる。また、入院している利用者家族と病状交換日記をし、連携を図っている。本人・家族の状況に応じて、通院の送迎等、柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前のかかりつけ医での受診を支援している。基本的には家族同行となっているが、必要時には職員も付き添うように支援している。また、事業所の協力医での受診については、家族との合意を得て支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針がある。その都度、事業所が対応し得る最大の支援方法について、本人・家族・かかりつけ医・近医・職員と話し合い、合意を図って方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に対してさりげなく誘導の声かけをして、本人の誇りやプライバシーに配慮している。プライバシーの確保及び個人情報の取り扱いについては、日常的に管理者は職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に留意して、利用者のその日したい事やできる事を尊重し、裁縫・書道・料理、朝寝、遅寝等、柔軟に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。誤嚥などの事故防止の観点から、利用者と一緒に同じ食事を摂りながら見守り介助をする職員と見守り介助に徹する職員がいるが、食事の楽しみを共有している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるよう柔軟に対応している。入浴拒否する場合は、人や言葉を変え、工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、職員は利用者のできることや得意な事を把握し、調理・漬物・洗濯干し・裁縫・編物・畑仕事等、楽しみごとも含めて、役割・気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調及び希望等に応じて、毎日近隣を散歩している。買い物は週4回に出かけている。季節の花を觀賞したり、花火大会や野球観戦、観劇、家族同伴の県外旅行等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。全職員は外出傾向がある利用者を把握し、見守りと連携に対応している。また、同法人の併設施設の職員との連携がとれ、協力体制が構築されている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路・消火器の使い方等訓練し、消防署への緊急通報システム装置を設置している。避難訓練実施の際は、地域住民へ呼びかけている。食料や飲料水等は準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。献立は、管理栄養士が作成している。一人ひとりの状態や嗜好を把握し、献立に取り入れながら、時折り、誕生会食や行事食をする等、工夫して支援している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間に季節の花を飾り、温度計・湿度計で適温・適湿を設定し、畳の間にはアロマセラピーでほのかな香りが漂っている。BGMや職員の声の大きさはちょうどよく、カーテンで光の強さに配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、馴染みの整理筆筒・テーブル・籐椅子・家族写真・好きな縫いぐるみ等を持ち込み、その人らしく居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。